

令和 2 年 2 月 13 日

教 育 長 様

代表者 校 園 名 :	大阪市立十三中学校	校印
校 園 長 名 :	屋 島 豊 市	
電 話 :	06-6301-2855	F A X : 06-6301-0499
事務職員名 :	西 め ぐ み	
申請者 校 園 名 :	大阪市立十三中学校	
職 名 ・ 名 前 :	教 頭 ・ 岸 上 智 弘	
電 話 :	06-6301-2855	F A X : 06-6301-0499

研究コース	
研究テーマ指定 S	
選定番号	307
校 園 コード (代表者校 園 の市費コード)	
642390	

平成31年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇平成31年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	研究テーマ指定 S	研究年数	新規研究 (1年目)
2	研究テーマ	生徒も教師も学びあい、成長する学校チームづくり ～「3つの学bee」のある授業による学力向上の研究～			
3	研究目的	大阪市授業のスタンダード「waku×2.com-bee」を全校で共通理解し実施することは、本校が取り組んでいる主体的・対話的で深い学びによる課題発見・解決能力や論理的思考力、コミュニケーション能力など今後獲得すべき重要能力・スキルの確実な取得に必要なものである。このため、「waku×2.com-bee」の趣旨を踏まえた教育実践・調査により学力向上を図ることで、大阪市における「waku×2.com-bee」の有用性の認知度の向上、すそ野の拡大に寄与する。また、国際バカロレア (IB) の指導方法・評価方法を取り入れグローバル人材の育成や将来、地域を担う子どもたちの育成の研究に取り組む。			
4	取り組んだ研究内容	<p>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。</p> <p>1) 授業改善のための研修を行い共通理解を図る。 ① 「waku×2.com-bee」による授業事例研究を行い、協働的な探求型学習をすすめる。 ② 視察による授業改革のモデルとなる授業のイメージ化の必要性を学ぶ。 ③ IBについて教職員研修会を行い、学ぶ意欲の向上につながる取り組みについて学ぶ。 ④ ICT機器活用による、学びの本質にせまる授業を開発していく。</p> <p>4月3日 (水) 授業研修会 (第1回) こども理解「waku×2.com-bee」339P、WS型 4月8日 (月) 授業研修会 (第2回) 学習意欲の向上方法「waku×2.com-bee」10～16, 337P 9月5日 (木) 授業研修会 (第3回) 指導技術「waku×2.com-bee」の27～32P、WS型</p> <p>2) 授業改善、課題解決のため先進校へ派遣 7月6日 (土) 高知市立横浜中学校に1名 8月7日 (水)～9日 (金) 国際バカロレア 3daysワークショップに2名 9月25日 (水) 宇部市立常盤中学校に1名 10月9日 (水) 都留文科大学国際教育学科に1名 11月18日 (月) 小牧市立応時中学校に2名 2月8日 (土) 大阪市立水都国際中学校に1名</p> <p>3) 研究授業に向けた共通理解の研修 11月6日 (水) 研修会 (第4回) 研究授業について I 11月18日 (月) 研修会 (第5回) 研究授業について II</p> <p>4) 研究授業の開催 11月22日 (金) 研究授業・先進校視察・IB研修報告会 参加者約37名</p> <p>5) 効果検証のためのアンケート実施 6月中旬 QUアンケート・生徒アンケート実施・集計・分析・共有 12月上旬 QUアンケート・生徒アンケート実施・集計 12月25日 (水) QUアンケート・生徒アンケート比較・分析・共有・結果の考察</p>			

5	成果・課題	<p>大阪府教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>および<u>教員の資質や指導力の向上</u>について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。</p> <p>①②教科指導力の向上をめざした。検証は平成31年度のチャレンジテスト・3年大阪市統一テストにおける標準化得点を、同一母集団で比較する。いずれの学年も前年度より向上させることを目標とした。【結果…72期生 0.95→0.93→0.96、73期生 0.89→結果待ち】△（統一テストで若干持ち直した）</p> <p>①③英語・国際理解について指導力が向上をめざした。検証は英検について3年は3級以上、2年は4級以上、1年は5級以上の英語力を有する生徒の割合で行う。前年度より各学年5ポイント向上させることを目標とした。【結果…3年37.1%→49.4%、2年62.1%→実施中止、1年72.1%→実施中止】○（12ポイント向上）</p> <p>①②③協働的学習について指導力の向上をめざした。検証は年度末の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考え方を深めたり、広げたりすることができていますか」の問いで行う。「当てはまる」と回答する生徒の割合を、前年度より5ポイント増加させることを目標とした。【結果…72期生32%→36.1%、73期生38%→42%、「やや当てはまる」も含めた全学年の肯定的回答は80%→84.5%】×（4.5ポイントの増加、目標の5ポイントに届かず）</p> <p>④ICTの活用が活性化する。検証は日本教育工学協会（JAET）が運営する学校情報化認定システムにおいて行う。自己評価を45ポイント以上（情報化優良校として認定されるためには40ポイント以上が必要）にすることを目標とする。【結果…47ポイント】○（11月までのタブレット端末の1学級あたり月平均活用数は16.3、先進校視察により大阪市のICT環境整備は充実しており、恵まれていることが再認識できた。）</p> <p>③国際バカロレア機構による研修を受講した教員がIB研修報告会においてワークショップ型研修を行うことで教員研修におけるアクティブラーニングを実現する。【結果…11月に実施】○（国際バカロレア機構が提唱する授業づくりの考え方について研修を行った。）</p> <p>②③生徒が安心して主体的・協働的に学べるよう指導力が向上する。検証はQUアンケート（事後）で行う。「学級生活満足群」の割合を40%以上、「学校生活不満足群」の割合を25%以下にすることを目標とする。（全国平均「学級生活満足群」37%、「学校生活不満足群」31%）【結果（6月→12月）…「学級満足群」1年48%→55%、2年47%→49%、3年44%→48% 「学校生活不満足群」1年17.8%→15.0%、2年18.3%→20.0%、3年27.2%→17.4%】△（「不満足群」が減少している部分は、回答生徒数増加の影響もある）</p> <p>《まとめ》 大阪市「waku×2.com-bee」を授業スタンダードとした全校での研修は一つの反対がでることなく、共通した授業方法のもと授業改善にのぞもうという意志一致が図れた。今年度は昨年度までであった「せっかく研究授業をしても見に来てくれない」という声はなくなり、同僚性が大きく高まった。 しかしながら、研究授業・先進校視察のための出張及びその報告において申請者である教頭の調整力のなさにより、教職員に不安と不満を招き、研究活動を著しく停滞させてしまった。次年度からは常置委員会である学力向上委員会が中心となって授業改善に取り組む体制に移行し、「waku×2.com-bee」が示す学校チームづくりをめざしていく。</p> <p>《課題》 【小中連携】小学校ですでに協働学習は定着している。校下小学校の公開授業参加者からは互いがどのような授業をしているのかを「waku×2.com-bee」の3つの学びを確認する小中連携が重要であるという意見があった。 【ICT】授業用PC機能を教員一人一台で使えるよう求められている。将来行われるという校務支援PCと授業用PCの統合システム更新は、タブレットで動画の撮影、パワーポイントの編集を生徒がする現状で評価をするために特に必要である。 【視察】大阪市の目標管理シートにおいて「5」や「4.5」の評価となっている授業者の授業を視察して学びたいという要望があった。</p>				
		6	研究発表等の日程・場所・参加者数	研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。		
				日程	元 年 11 月 22 日	参加者数 約 37 名
				場所	大阪市立十三中学校 1年教室・会議室	
				備考		